

計画段階評価対応方針

【空港整備事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
札幌飛行場 (北海道) 北海道開発局 東京航空局	・札幌飛行場は、札幌市中心部から約 6km という至近距離に位置するため、ビジネス、観光、防災、医療の各方面で極めて重要な役割を担う都市型空港として地域に根付いているが、冬期における小型ジェット機の運航制限など技術的制約があり、そのポテンシャルが十分に発揮されているとは言い難い。 ・地域の持続的な発展と、安全・災害対応力の高度化等に向け、滑走路延長を核とする機能強化は喫緊の課題となっている。	①小型ジェット機の冬季運航制限の緩和 ②安全・防災支援機能の確保 ③道内外を結ぶ航空ネットワークの充実 ④道央圏空港の機能強化	【案 1】北西側 150m・南東側 150m 延長 <滑走路 1,800m> ①整備効果 4つの政策目標すべてに効果あり ②空港周辺への影響 大規模な河川・道路の切り回し不要、空港に隣接する公園内の園路の切り回しが必要 ③事業費 160 億円程度 ※人件費や資材費の変動、今後の設計・施工検討により事業費が変わる場合があります。 ④事業期間 3～4 年程度 【案 2】北西側 200m・南東側 100m 延長 <滑走路 1,800m> ①整備効果 4つの政策目標すべてに効果あり（案 1 と同等） ②空港周辺への影響 大規模な河川・道路の切り回し、民地の買収が必要、園路の切り回しは不要 ③事業費 180 億円程度（案 1 より河川・道路の切り回しに必要な事業費が高くなる） ※人件費や資材費の変動、今後の設計・施工検討により事業費が変わる場合があります。 ④事業期間 5～6 年程度（案 1 より用地取得に必要な期間分が長くなる）	【案 1】による対策が妥当 （理由） 整備効果は両案とも同等であるが、案 1 は河川（丘珠川）及び道路（烈々布北支線 3 号・6 号）の切り回しが必要であり、空港周辺への影響が少ない。 事業費は案 2 と比較して低く、事業期間も案 2 より短い。空港周辺への影響、事業費、事業期間を比較し、案 1 が優位であると考えられるため。